

たまむしのずしひみつ

絵解き 玉虫厨子の秘密

令和三年七月十七日(土) 十四時より

(午後一時三〇分開場・終演予定四時)

場所

穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース

住所：豊橋市西小田原町123

木戸銭

二〇〇〇円 (小中学生 五百円) / 定員 120名

チケット発売：六月一日より

プラットフォームセンター窓口・TEL：0532-39-3090

(10:00~19:00休館日を除く)

オンライン：<http://toyohashi-at.jp> (24時間受付・要事前登録)

※問合せ先：090・8136・4547 (松田) / 090・9226・0459 (村田)

主催 聖徳太子没後一四〇〇年記念公演実行委員会
後援 豊橋市教育委員会
公益財団法人 豊橋文化振興財団



〈出演〉

● 椿三比丘尼

堀江邦子 (絵解き)

村田青水 (琵琶)

音弥 (三味線)

● 小柳津糺

● 榊田英伸 (興正寺僧侶)

プ ロ グ ラ ム

～豊橋と聖徳太子のつながりはここにあった～

第一部・・・豊橋おかし話「多米の徳合長者」 小柳津 糺

講話「聖徳太子と仏教 よもやま話」 梶田英伸

《休憩 十五分》

第二部・・・絵解き「玉虫厨子の秘密」 椿三比丘尼 (堀江邦子・村田青水・音弥)

絵解きってなに？

絵解きとは、仏教の説話画などを民衆に分かりやすく物語る行為で、当初は僧職者が行ったとされるが、間もなく民間芸能化しました。

玉虫厨子とは？

「厨子」とは仏像など礼拝の対象となるものを納めて屋内に安置する屋根付きの工作物のこと。「厨子」には様々な形のものがあるが「玉虫厨子」は奈良県法隆寺に現存する日本最古の厨子で、飛鳥時代当時の建築様式を模した造りになっている。屋根は入母屋造り。その名の由来となっている玉虫細工が柱や宮殿の入り口部分に施されていたが、残念ながら、長い年月の間に玉虫の羽根のほとんどが失われてしまっています。



出 演 者 紹 介



小柳津 糺

豊橋の民話語り人。豊橋民話の会代表。豊橋民話保存会・へのかっぱの会。父親から伝説・郷土民話などを聞き育った影響で、「郷土の民話」に興味をもつ。2000年、豊橋市社会教育課講座「ふるさとに伝わる民話」(講師・糸柳弘氏)の受講

を機に、「豊橋の民話」を執筆・冊子発刊。2002年「豊橋民話の会」を発足。後、民話の現地探訪、聞き取り調査、採話、執筆活動等始める。2007年、豊橋の民話集「片身のズキ」(豊橋の民話を語り継ぐ会)書籍刊行。以来、豊橋各地で豊橋民話の語り部として活動中。2019年からはハンマーダールシマー奏者の平野明子氏とのコラボを展開中。



梶田英伸

浄土宗僧侶、大阪出身。

京都仏教大学卒業後、法然院(京都鹿ヶ谷)にて2年、貞照院(愛知県碧南市)にて9年の修行後、長谷寺(鎌倉)にて5年勤務。2012年より八事山興正寺

(名古屋市)に勤務。寺務のかたわら、法話、講座、座禅指導もこなす。また、三河すーぱー絵解き座に所属し、絵解きにも積極的に取り組んでいる。コロナ禍を機に、ほぼ毎日Podcastでの法話配信、個人ホームページ「弥陀講堂」でも仏教の発信を行っている。著書に「絵本極楽」(2009、西川隆範と共著)、「師、威厳あって温厚なり～法然院の忍叡上人のはなし」(2010)がある(ともに風濤社刊)。

椿三比丘尼：2016年、最年長でチャーミングな堀江邦子の「地獄絵解き」を琵琶と三味線で共演したのを機に、庵主さまと弟子二人という設定の「椿(のように美しい?)三比丘尼」が誕生しました。以来さまざまな絵解きの公演を続けています。

堀江邦子

三河すーぱー絵解き座 所属

※主に蓮如上人の絵解きをしています。



村田青水

薩摩琵琶奏者、教師

錦心流琵琶全国一水会本部理事・豊橋支部長
日本琵琶楽協会 及び 中部琵琶連盟 会員
平成24、25年琵琶楽コンクール上位入賞

※地元中心に琵琶の普及に努めるとともに、古事記やお伽草紙、今昔物語等、また豊橋の民話を題材にした創作琵琶にも力を入れている。怪談シリーズ「九十九夜語り」では、九十九話完結めざして奮闘中。



音弥

武蔵野音楽大学音楽教育科(ピアノ)卒
平成11年藤本流三味線藤本秀双氏に師事
平成23年藤本秀弥生(ひでみお)襲名、
準師範資格取得

※平成22年より寄席やイベントでの弾き歌い、出囃子演奏、物語に合わせた三味線の作曲等本格的な演奏活動をはじめ。また三河、遠州を中心に民謡・端唄・俗曲などを弾き歌うほか、ピアノ、サクソとのユニット「TENTUKU」を展開中